

おわりに

明治、大正、昭和と女の人が、芸術や文化で生きていくことが大変な時代に、蓼沼ナヲ、トミ親子がまだまだ文化が未熟な田舎であった留萌にやってきました。

特に留萌は鯺漁が最盛期で、文化とは無縁な荒くれ漁民たちの世界だったはずです。

しかし、少しずつ芽生えてきた文化の芽を大和遠州流茶道を通じて留萌の女の人たちに根付かせてくれたことは、留萌人にとっては幸運なことでした。

留萌市がこの親子に留萌市文化賞を贈って讃えたことは当然のこととされます。

これからじよせいは女性かつやくが活躍する時代です。

留萌じよせいの女性もこの親子さんこうの生き方を参考に、時代をリードする生き方をしてみてもいいでしょうか。



こてん てんじ たでぬま しえい
個展に展示した絵と蓼沼ナヲ(紫英)